

## 朝来市平和都市宣言を制定

市は、市民一人ひとりが平和追求への意識を高め、恒久平和を強く願うことを目指して「朝来市平和都市宣言」を定めました。

本宣言は、昨年9月に市長から委嘱を受けた7人の委員による朝来市平和都市宣言文検討委員会での、文案の検討を行ない作成したもの。委員会での熱心な議論により作られた宣言文案は、12月に多次市長へ答申され、その後1か月間のパブリックコメントを実施し、若干の修正の後、

6月議会定例会に上程しました。議会では本会議と総務常任委員会での審議を経て、宣言文の一部を修正し可決されました。

可決された朝来市平和都市宣言は前文と4つの本文で構成され、簡潔で端的な表現とし、市民の皆さんに理解しやすく、活用しやすくなっています。

市民の皆さんに日々の暮らしの中で親しまれ、また平和について考える機会となるよう、今後は普及と啓発活動に取り組みでいきます。

## 朝来市平和都市宣言

私たち朝来市民は、私たちと世界中のすべての人々の平和を願い、次のことを宣言します。

一、私たちは、平和な生活を守るために、日本国憲法に掲げられた恒久平和を守り、いっさいの戦争を永久になくすことを求めます。

一、人々の命をうばい生活を壊す核兵器の廃絶を強く訴えます。

一、市民憲章の誇りと責任を持ち、平和への不断の努力によって、安全で安心、緑豊かな私たちのふるさとを未来の子どもたちに残します。

一、互いを理解し、それぞれの立場を尊重し、知恵と勇気を持ってすべての争いを話し合いでなくすことを求めます。

## 我がまち朝来 再発見

第45回

人民救済へのメッセージ  
経瓦(きょうがわら)  
兵庫県指定重要文化財

みなさんは未来の自分や家族に宛てたメッセージをタイムカプセルにして地中に埋めたことがありますか？実は、日本のタイムカプセルの歴史はとても古く、その始まりは今から約千年前の平安時代にさかのぼります。

その先駆けは、平安貴族の藤原道長公。ただ、彼が埋めたものは未来の自分への手紙ではなく「お経」。この頃、釈迦の死後千年も経つとその力は消え、極楽にもいけない時が来ると信じられていました。いわゆる「末法思想」です。道長は、釈迦の入滅(ひょうめつ)から数えて56億7千万年後の現世に現れ



経瓦(山東町楽音寺所蔵)

人々を救済してくださる弥勒菩薩(ぼつさく)に向けてお経を書き写しました。そして、人知れず地中に埋めたのです。これは貴族を中心とする人々の間で流行し、中世以降は現世利益や追善供養の意味も加わり庶民の間に浸透し、近世に至るまでほぼ全国的に延々と続く宗教行為となりました。朝来市内でも例にたがえず、お経のタイムカプセルを作った人がいたようです。山東町楽音寺所蔵の経瓦が、その一例です。